

# 旧茂木家住宅

## Former House of Mogi



なめがたくんうしほりまち (現：いたごし) から、昭和 48 (1973) 年に移築した直屋型の農家である。

向かって左方 (西側) の土間に比べ、中央の板張りの広間の面積が広いところに特色がある。また、柱などには、行方地方に多い椎のノタ付柱 (原木の姿をとどめた柱) が使われているところも注目される。

建築年代は明確ではないが、江戸時代の中期頃 (元禄年間) とみられる。茨城県の南部地方の民家の一形式を伝える貴重なものである。

茂木家については、当家で保存されていた文書により、江戸時代には組頭、明治 5 (1872) 年に副戸長など、村の世話役をやっていたことなどが明らかになっている。



現在の潮来市の位置

## 建物の見どころ



茨城県指定有形文化財建造物

指定名称「旧茂木家住宅」

寄贈者：茂木俊行氏

昭和 45（1970）年 5 月 28 日 指定



屋根

茅（ちがや）を用いた茅葺屋根



軒付け（のきづけ）

- ・外側は茅（固く、つぶれないため通気性に優れる。）
- ・内側は稲（柔らかく、つぶれるため気密性に優れる。）



外壁（土壁）



鹿窓（ししまど）



天井（囲炉裏の上部）



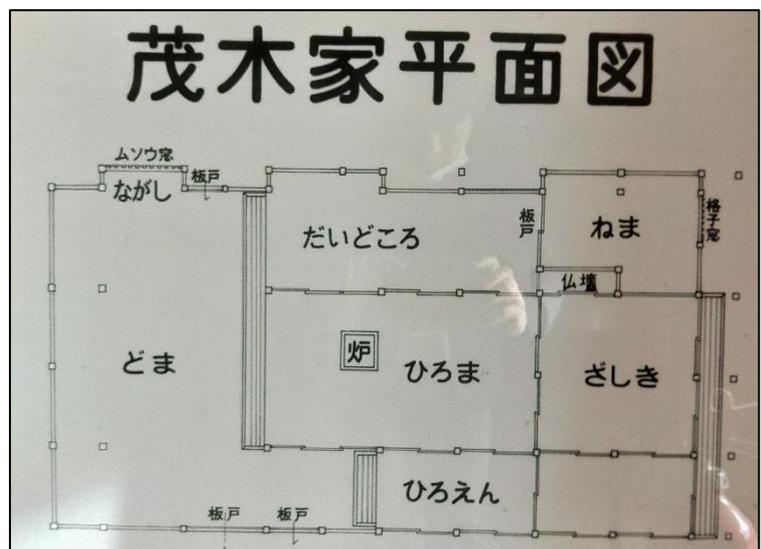
梁（はり）



広間



柱



広縁の「たかばた」